

# 学校現場から学ぶ

## ～高等学校「解放研」～

いのち・愛・人権

今回は、高校の部活動「解放研」の取り組みについて先生にお話を伺いました。

その活動に学び、私たちは何ができるかを考えてみたいと思います。

### 「解放研」とは

鳥取県東部地区の各高等学校には、「部落解放研究会（通称解放研という）が部活動として組織されています。各学校で解放研をとりまく状況はそれぞれ違います。解放研は、その名のとおりに「部落差別を中心課題として、その解消に向けた活動に取り組む部」と捉えていただいていると思います。

### 「解放研」の具体的な活動は

私の高校の状況について紹介させていただきます。解放研部員は現在20数人。毎週行う定例会が活動の基本で、自分と差別との関係を見つめ直すことを活動の柱にして、差別について自分の考えを話しています。その話し合いの中では、自分の生い立ちや親のこと、自分が部落をどう見てきたか、今どう思っているかなどを部員同士で話し合っています。

3年生の解放研部員が書いた次のような作文があります。

す。この生徒が差別とどう向き合ってきたのがこの作文でお分かりいただけると思います。

自分が部落出身ってことをどう自覚していったか分からないが、いろんなことが変わった。差別に対する向き合い方が変わった。前は俺には関係ねえと思っていた。いじめなんて弱いやつが悪いと思っていたし、差別なんてしようがない、強いやつがやりたいようにしているだけだから、絶対なくならないうって思ってた。でも、解放研でいろいろ話を聞くうちに俺にも降りかかるかもしれないと思った。それを知った時は、すっげー怖かった。その時、「やっぱ俺も考えなあかん」と思った。そして解放研に積極的に参加するようになり、いろんな会に参加した。いろんな人と話をすると、俺と似たようなやつもいたし、ずーっと部落に住んでいるやつもいた。部落って差別されるといいうくりはひとつでも、みんないろいろな考えを持ち、おもし

ろい。少しかだけ部落に住んで良かったと思った。これから俺は卒業して社会に出るが、解放運動は続けていくつもりだ。でも、正直言って不安だ。俺が諦めるかもしれないし、差別をうけるかもしれない。こんな不安もあるけれど、仲間がおるし、まあなんとかやっていけるかなあと思う。

### 「解放研」の活動から学ぶことは

解放研で大事にしていることは、それぞれが「部落」の

存在をどう教えられ、どう受け止めてきたか、そして、差別をどう理解するのかを考えると、それが進路保障や差別をなくす取り組みや、それぞれの思いを大事にできる仲間づくりにもつながっています。

当事者が感じる不安や「えらさ」、これに教職員はどこまで寄り添い、解決に向けてどう関わるか、その営み自身が同和教育だと私は思っています。



### 子どもたちが「不安」や「怖さ」を抱くことのない社会を

私たちの生活空間には、「差別」や「人権に関わる課題」がたくさん存在しています。この解放研部員の感じた「不安」は、現実の社会の中で起こっています。

子どもたちの言葉に込められた気持ちをしっかり受け止め、ともに考え、「不安」や「怖さ」を抱くことのない社会をつくっていかねばなりません。そのためにも、さまざまな課題を共有できる仲間づくりが大切であることを、解放研の活動が教えてくれています。

■問い合わせ先  
市役所第2庁舎人権・同和教育課  
TEL (0857) 20-3376